

OTフェスティバルへの出展が  
IADL向上につながった症例  
～過去に作成した作品の出展効果～

ゆきよしクリニック

高野友美      清水美穂

加藤拓        中川由子

# 【はじめに】

今回「バスに乗りたい」という目標を持った症例を担当した。自信獲得のためバス乗降模擬動作練習を実施したが、実際の動作にはつながらなかった。しかし、OTフェスティバルに向けての介入を行ったところ、短時間通所リハビリテーション（以下、短時間通所リハ）利用時の様子に変化が見られ、バスに乗るという行動につながった。

そこで、OTフェスティバルを介した関わりが症例にどのような影響を与えたのかを考察する。

# 【事例紹介】

**69歳 女性**

## 疾患名

両側先天性股関節脱臼 右変形性膝関節症

## 介護保険

要支援1。短時間通所リハ(週1回)のみ。

## 家庭環境

息子との二人暮らし。近くに住む姉が月1回程度訪問し、一緒に買い物に出掛けることがある。

# 【初期評価(X年5月)】

## 身体機能:

足関節軽度外反変形により歩行時に右足関節内側部に痛みあり。

## 精神機能:

- ・人との関わりに対しては消極的。
- ・表情の変化も乏しく、緊張度が高い。
- ・短時間通所リハを休むときは振り替え利用はほとんど希望がない。

## ADL: Barthel Index: 100 / 100点

- ・移動は屋内独歩。屋外はT字杖使用し30分以上歩行可能。
- ・階段昇降は手すりを使用して自立。

## IADL: Frenchay Activities Index自己評価表: 19/45点

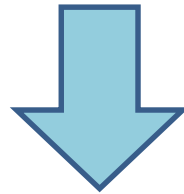
- ・食事の用意・片付け、洗濯、掃除、買い物は全て自立。
- ・公共交通機関の利用なし。

# 【介入の基本方針】

Needs: バスに乗って買い物に行きたい

➡ 目標: バスの利用

バスに乗るための下肢筋力、体力に  
低下はみられないが実施に至っていない



## OTプログラム

- ① 下肢体幹のストレッチ、筋力訓練
- ② 模擬動作練習
- ③ OTフェスティバルに向けての介入

# OTフェスティバルに向けての介入

入院中、同室の方が教えてくれて作製したもの。患者同士の関わりがあり「入院中は楽しかったですね」と笑顔で語る。自宅に大切に飾っている。



出展案内: 一度は出展を断るが、20年前に作製した作品があると話があり、出展を決意。

出展直前: 出展に対する強い不安を示す  
→①数人の利用者を集めて作品を披露する場を提供  
②OTフェスティバルをイメージできるよう説明

出展後: OTフェスティバルに行くことができなかった  
→院内で出展時の写真、出展証明書を展示

担当開始時

OTフェスティバルに向けての介入

OTプログラム		
下肢体幹ストレッチ 模擬動作練習		
OTフェスティバル		
精神機能面の変化		
話し方・話の内容	声は小さく早口で自信なさそうに話す。 内容は痛みの訴えが多い。	出展作品について笑 と出展に対する不安
表情	表情硬く、変化が乏しい。	
対人関係	消極的で職員の声かけを待つような姿勢が見られる。	職員・他利用者との関
基本的交流技能	挨拶はされればする程度。 職員への意思表示はアイコンタクトが多い。	
その他	短時間通所リハを利用できない時は、振替利用を希望 しなかった。	

OTフェスティバル後の介入

バスに乗ることができた時期

笑顔で語る。しかし、出展が決まる 安の訴えが聞かれる。	声ははっきりと聞き取れるようになった。 身体機能面以外の会話が増え、痛みの訴えは少なくな った。
	周囲に聞こえるような声で笑うようになり、表情の変化 が見られるようになった。
の会話機会が増えた。	
	職員・他利用者に話しかける様子が見られる。 OTに他利用者の名前を確認して名前を呼んで声をか ける場面も見られる。
	短時間通所リハを利用できない時は、必ず職員に理 由を伝え、振替利用を希望するようになった。



# 【再評価(X年10月)】

## 身体機能:

右足関節内側部の痛みの訴えが減少した。

## 精神機能:

- ・来院時、退所時は大きな声で職員に挨拶するようになり、積極的な会話が増えた。
- ・表情が豊かになった。
- ・短時間通所リハの利用ができない時は振替利用を希望するようになった。

**ADL**: Barthel Index: 100 / 100点

**IADL**: Frenchay Activities Index自己評価表: 20/45点

公共交通機関の利用として、一度バスを利用した。

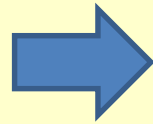
# 【考察①】

## OTフェスティバル出展に対する強い不安について

過去に作製した出展作品に自我が反映

入院中の作品

達成感・自信の象徴



OTフェスティバル出展前の作品

自信のない自分の象徴

不安

# 【考察②】

## 不安に対するOTの介入効果について

### OTフェスティバル前の介入

- ・数人の利用者を集めて作品を披露する場を提供
- ・OTフェスティバルをイメージできるように説明
- 過去に達成感・自信の象徴となった作品を用いて出展という社会参加を果たす
- 症例の生活背景を職員・他利用者が知るきっかけとなり、会話の機会が増えた

### OTフェスティバル後の介入

- ・出展証明書や写真を院内に展示
- 院内展示写真を通して出展という場を経験し、自身の能力に気づく機会となった

**不安軽減・自信獲得**

**バスに乗ることができた**